

益田市内の中世文書に使われている紙の調査について

益田市内の中世の古文書にどのような紙が使われているか、調査が行われます。

武蔵野大学文学部の漆原徹教授を代表とする研究者の方々は、中世の古文書にどのような紙が使われているかに関心を持たれ、全国各地の古文書の調査を進められています。

このたび、益田市内の中世文書を対象に下記のとおり調査が実施されます。

下記の「取材への対応について」のとおり、取材を受け付けますので、ぜひ取材くださいますよう、ご案内いたします。

記

●調査の概要

【日 時】令和5年11月18日（土）から20日（月）まで

【場 所】益田市内各所

【調査対象】妙義寺文書、萬福寺文書、原屋家文書、梅津文書、俣賀家文書、原馨氏所蔵増野家文書、澄川家文書など

【調査方法】紫外線を発しない特殊光を用いた透過光顕微鏡写真の撮影と、文書全体の通常撮影

【調 査 者】武蔵野大学文学部 漆原 徹 教授
皇學館大学文学部 岡野 友彦 教授・文学部長
東京理科大学 神野 潔 教授
帝塚山大学 花田 卓司 准教授

●取材への対応について

【日 時】令和5年11月20日（月）10時から12時まで

【場 所】萬福寺（島根県益田市東町25-33）